

全国統一小学生テスト 対策授業

国 6
年 生
語 生

① 説明文の読み方

◆ 接続語の用法

接続語は、「言葉と言葉」「文と文」「段落と段落」などのつながり方を示す大切な言葉です。その働きによって次のように分類されます。

- ① **順接**：前のことがらが原因・理由となり、その当然の結果・結論が後にくる
だから・したがって・それで・そこで・すると・ゆえに など
- ② **逆接**：前のことがらと逆になるようなことがらや、くいちがうことが後にくる
しかし・だが・けれど・ところが・でも・が・しかるに など
- ③ **並立（並列）**：前のことがらと後のことがらが対等な関係でならべられている
また・ならびに・および など
- ④ **添加（累加）**：まえのことからに後のことがらをつけ加える
そして・さらに・そのうえ・それから・しかも・それに など
- ⑤ **説明**：例を示したり、理由を述べたり、言い換えたりしてくわしく説明する。
 - ・ **例示**：具体例を示す
たとえば・いわば など
 - ・ **理由**：理由を述べる
なぜなら・というのは など
 - ・ **換言**：言い換える
つまり・すなわち など
 - ・ **補足**：補い、条件などをつけ加える
ただし など
- ⑥ **選択**：前のことがらと後のことがらを対比したり、そのどちらかを選ぶことを示したりする
あるいは・または・それとも・もしくは など
- ⑦ **転換**：前のことがらから話題を変えたり、話題を限定したりする
ところで・それでは・さて・では・ときに など

◆ 指示語の用法

文章を読むときは、指示語の指し示す内容をきちんととらえることが大切です。指示語は、主に直前に述べた内容を受けて、くり返しをさせて、後につながる言葉です。指示語が指し示す内容は、「単語や語句」、「一文」、「いくつかの文」、「一つの段落」、「いくつかの段落」とさまざま場合があります。前後をていねいに読み、指示語がどういうことをさしているのかをおさえながら読み進めることが大切です。

◆ 指示語の種類

指すもの	自分に近いもの	相手に近いもの	どちらからも遠いもの	はっきりしないもの
ものごと	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
ものごと	この	その	あの	どの
様子	こう	そう	ああ	どう
様子	こんな(だ)	そんな(だ)	あんな(だ)	どんな(だ)

◆ 文章の組み立てを考える

説明的文章をより正確に読み取るためには、文章全体の組み立てを考える必要があります。

① 形式段落ごとに要点を読み取る
各形式段落の大事な内容を「**要点**」といいます。この「**要点**」を読み取るには、形式段落ごとの「**話題**」を読み取り、形式段落をまとめる役割をする「**中心文**」をみつけることが大切です。

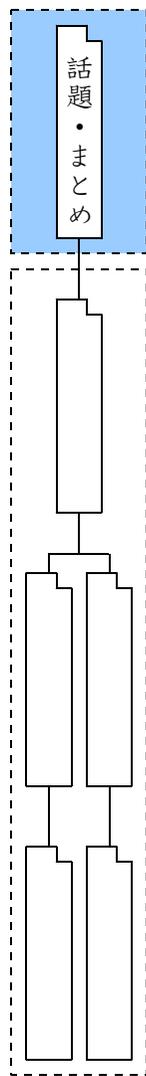
② 文章全体を**意味段落**にまとめる
形式段落ごとの話題と要点を読み取り、くりかえし出てくる重要語句(キーワード)をチェックすることで、となり合う形式段落の話題や内容が共通しているかどうか、連続しているかどうか、もしくはちがう話題に移ったのかどうかなどを考え、意味段落にまとめます。

③ 文章全体における意味段落の役割を考える

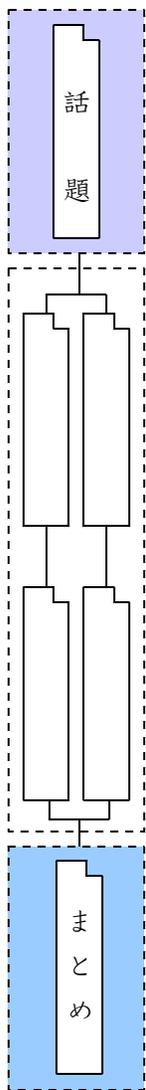
- ・ 話題を提出する「**話題段落**」
- ・ 結論(まとめ)を示す「**結論段落**」
- ・ 具体例を示したり、理由・原因などを述べる「**説明段落**」

④ 説明的文書の組み立てにはいくつかの基本パターンがあります。

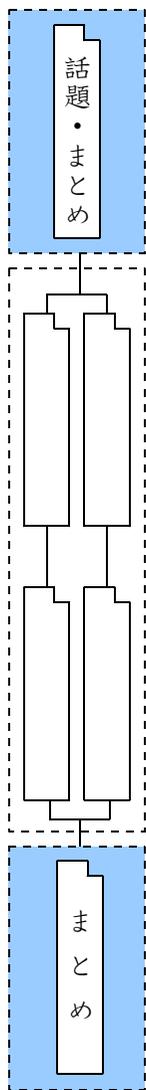
頭括型
とうかつがた



尾括型
びかつがた



双括型
そうかつがた



◆ 文章の要旨を読み取る

説明的文章において、筆者がその文章を通して最も言いたかったことを「要旨」といいます。「要旨」を読み取るには、

① 「結論段落」をみつける：文章の最初か最後、あるいは両方

② 「結論段落」の中心文（まとめ）をみつける

③ 文章を「要約」する

「要約」とは、説明的文章の大事なところを落とさずに短くまとめることです。文章全体の「要約」は、「要旨」をふくめて文章全体の要点をまとめたものです。

② 文章問題にチャレンジ！

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(①～⑧は形式段落の番号を示します。)

① 〈害虫〉とは何だろうか。「害虫」とは、人間にとって有害な虫のことに決ま

っているのではないか」と思われる読者もいるかもしれない。確かに今日の私たちがとって〈害虫〉とは、迷惑で忌み嫌われ、通常は排除されるべき生物である。

A 歴史的に見れば、このことは決して当たり前ではない。

② まずは①身近な〈害虫〉の代表格であるゴキブリについて考えてみよう。家のなかを走り回り、黒光りするゴキブリの姿を見ると、ほとんどの人はぞっとして追いやるとするだろう。

B ゴキブリが現在のようにならないうちに身近な〈害虫〉となったのは、じつは戦後になってから、ごく最近のことなのである。屋内に出没するゴキブリの存在自体は、すでに江戸時代から知られていた。当時の人たちは、食器

でも食物でも何でもかじりつくしてしまうこの虫を「御器かぶり」と呼んだ。これが「ゴキブリ」の語源となっている。C ゴキブリが出没する家は限られていたようだ。食物が豊富で冬でも暖かな家でなければ、ゴキブリは定着することができない。② そのような家が増えたのは、日本では高度経済成長以降のことなのである。③ それまでゴキブリは、あまり重要な害虫ではなかったと言っ

てよい。群馬県高崎地方では、チャバネゴキブリのことを「コガネムシ」と呼んでいたという。④ 「コガネムシは金持ちだ」という野口雨情の童謡で歌われているのは、この虫のことなのだ。ゴキブリが多いと金が貯まるという話は、愛知県や岡山県にも残っている。秋田県では、ゴキブリを駆除すること自体が厳しく戒められていたという。おそらく食料が多い豊かな家にゴキブリが居つくことから生まれた風習だろう。(西原伊兵衛『アマメ』『フ』を笑う)。

④ このエピソードは、現在私たちが〈害虫〉と呼んで当たり前のように駆除している生き物が、かつては害虫ではなかった場合があることを示唆している。〈害虫〉の境界線は、時代によって常に揺れ動いているのである。

⑤ もう一つ、⑤ 興味深いエピソードを紹介しよう。一八九七(明治三〇)年、愛知県豊橋近郊を訪れたある昆虫学者は、大量のウンカが発生しているのを観察した。そこで昆虫学者は一人の農民と出会い、次のような会話を交わす。

昆虫学者「これは大変である、早く駆除したらよからう」
農民「いや、おかげさまでようよう昨日秋葉山のお札を受けて田の中に立てましたから、まあ安心を致します」

昆虫学者「ああそうか、しかしながらお札だけでは本当の駆除ができぬから、それへもっていってもう一つ人業でやったならば必ず効があるが、やったらどうであるか」

農民「……お札を立てた所はよろしいということでござりましたから、なにぶんこれでお助けをこうむるつもりだ」(名和靖『害虫駆除予防二関スル講話筆記』)

⑥ あきれた昆虫学者は、歎息してその場を立ち去った。ここで注目すべきは農民の愚かさではない。むしろ重要なのは二人の間で会話がまったく成立していないことである。昆虫学者は、「人業」で害虫を駆除することができると考えている。それに対して農民は、そもそも人間の手を使って害虫を駆除するという発想がない。お札や神頼みで駆除するしか方法はないと思っこんでいる。この農民にとって害虫とは、人間の力を超えた存在なのである。

⑦ 現代の私たちは当たり前のように、害虫は殺虫剤などを使って駆除すべきであると思っっている。D 明治の人々にとって、これらの虫は人間の力では決して制御されることのない、やっかいな生き物にほかならなかった。E 害虫に對する人間の態度は、I によって大きく変容していくものなのである。

⑧ これら二つのエピソードからわかることは、〈害虫〉という存在がどの時代においても変わらない。2 な存在ではないということである。⑥ 現在私たちが自明のものとな見なしている「害虫と人間の関係」は、歴史的に作り上げられてきた

ものなのだ。

※ 示唆して……暗に示して。

※ 歎息して……なげいてため息をついて。

(瀬戸口明久「害虫の誕生」より)

問一

A S E には接続語がはいりますが、一つだけ種類の違う接続語がはいるところがあります。I II それをA S Eから選び、2 II また、そこにはいる接続語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A なぜなら I つまり ウ しかし E ところで オ そこで

1	
2	

ヒント

A 「今日の私たちにとって〈害虫〉とは、迷惑で忌み嫌われ、通常は排除されるべき生物」と、「歴史的に見れば、このことは当たり前ではない」と前後で食い違った内容がつながっています。B 「ゴキブリの姿を見ると、ほとんどの人はぞっとして追い払おうとする」と、「ゴキブリが現在のように身近な〈害虫〉となったのはごく最近のことなのである」と前後が食い違った内容です。C 前に、「ゴキブリの存在自体は、すでに江戸時代から知られていた」とあるが、後ろでは「ゴキブリが出没する家は限られていたようだ」とあり、これも前後が食い違っています。D 「現代の私たちは駆除すべきであると思っている」のに対して、「明治の人々にとってくやっかいな生き物にはかならなかった」とこれも反対の内容です。E 前の二文、「現代の私たちはくやっかいな生き物にはかならなかった」ということを、「害虫に対する人間の態度は時代によって大きく変容していくもの」だとまとめて、言い換えています。

問二

線①「身近な〈害虫〉の代表格であるゴキブリ」とありますが、「ゴキブリ」の語源がわかる一文をさがし、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

ヒント

10・11行めに「これが『ゴキブリ』の語源となっている」とあるので、「これ」が指しているものを含む一文を探しましょう。

問三

線②「そのような家」とはどのような家ですか。十五字以内で抜き出して答えなさい。

ヒント

指示語の内容を読み取る問題です。基本通り、傍線部を含む一文をよく読み、「日本では高度経済成長以降」に「増えた」家とはどんな家か、直前部分から探します。

問四

- 線③「それまでゴキブリは、あまり重要な害虫ではなかったと言ってよい」のはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 他の害虫にくらべて農作物に害をおよぼすことが少なかったため、急いで駆除する必要がなかったから。
- イ 屋内に出没するゴキブリは江戸時代から知られていたが、害虫であることがわかったのは戦後だったから。
- ウ 豊かさの象徴であるゴキブリを駆除することが厳しく戒められていたので、害虫とは思えなかったから。
- エ ゴキブリが生息し定着することのできるような家が、高度経済成長期以前の日本には少なかったから。

ヒント

ア 本文に「農作物」とゴキブリの関係への言及はあるでしょうか。イ ゴキブリが何でもかじりつくしてしまうという害については、江戸時代にすでに知られていました。ウ 「ゴキブリは豊かさの象徴だったという説さえある」とは、この説が特例であることを示しています。エ 「食物が豊富で冬でも暖かな家」が増えたのは、いつからでしょうか。

問五

——線④「この虫」とは何のことですか。文章中から抜き出して答えなさい。

ヒント

『コガネムシは金持ちだ』と歌われている「虫」は？

問六

- 線⑤「興味深いエピソード」とありますが、筆者はどういうところが興味深いと言っていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 昆虫学者の科学的な害虫駆除の方法を信じず、秋葉山のお札を信じようとする農民の愚かなところ。
- イ 自分たちのやり方を押し通すために、昆虫学者のいうことを無視しようとする農民のかたくななところ。
- ウ 害虫は殺虫剤などで駆除するべきではないと考え、生き物を大切にしようとする農民の知恵のあるところ。
- エ 農民には虫を人が制御できるといふ発想がなく、秋葉山の御利益にすぎるしかないと思いきんできるところ。

ヒント

⑥段落の内容をよく確認してみましょう。

問七

1にあてはまる二字の言葉を文章中から抜き出して答えなさい。また、

2

- ア 抽象的 イ 普遍的 ウ 相対的 エ 具体的

ヒント

- 1 ④・⑧段落に注目しましょう。
2 空欄を含む一文を言い換えたものが後の一文ですから、空欄の言葉の意味は、直前の「どの時代においても変わらない」と同じ意味だとわかります。

1	
2	

問八

この文章を四つの意味段落に分ける分け方として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ①/②③④/⑤⑥/⑦⑧
ウ ①/②/③④⑤⑥/⑦⑧

- イ ①/②③④/⑤⑥⑦/⑧
エ ①/②③/④⑤⑥⑦/⑧

--

ヒント

- 一 害虫とは何だろうか？ 歴史的に考えてみようという話題提示。
二 「ゴキブリ」を例にした、「害虫」の境界線が、時代によって常に揺れ動くことの説明。
三 例を挙げての、「害虫」に対する人間の態度の時代による変化についての説明。
四 「害虫」という存在は時代によって変化しているというまとめ。
以上の四つに分けられます。それぞれの説明にあてはまる段落を探しましょう。

問九

——線⑥「現在私たちが自明のものと見なしている『害虫と人間の関係』」とありますが、筆者は現在の人間にとって害虫はどのような存在であると述べていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間に忌み嫌われ、排除されることが決して当たり前とは言えない存在。
イ 昔からいたが、高度経済成長期になって改めて認識されるようになった存在。
ウ 人間の力だけでは決して制御されることのない、強力でやっかいな存在。
エ 人間にとって有害な生物であると同時に、人間の力で排除されるべき存在。

--

ヒント

- ①・⑦段落に注目します。

問十

次の1～5の文について、本文の内容に合っているものには○で、まちがっているものには×で答えなさい。

- 江戸時代にはゴキブリを屋内で見ることがはなかったが、明治時代になってからは見かけるようになった。
- 「害虫」と呼ばれていた昆虫が、現在「益虫」になっている例もあるので駆除はおこなうべきではない。
- 明治時代には日本全国でゴキブリはコガネムシと呼ばれ、豊かさの象徴として駆除が禁止されていた。
- 害虫に対する考え方、害虫に対する人間の態度は時の移り変わりによって大きく変容していくものだ。
- 現在「害虫」と呼ばれ駆除の対象となっている虫でも、かつては「害虫」ではなかった可能性がある。

1

2

3

4

5

ヒント

各文を適切な箇所と照らして検討します。

段落 4 ↓ ①②④⑦⑧段落 5 ↓ ③段落

1 ↓ ②段落

2 ↓ ③④段落

3 ↓ ③

③ 物語文の読み方

◆ 場面と登場人物を読み取る

① 場面を読み取る

「場面」とは、物語や小説などの話の筋（ストーリー）を

・いつ（時）

・どこで（場所）

・だれが（登場人物）

・どうした（できごと）

という四つの点からとらえたひとまとまりの部分のことです。この四つの点に注意して読み進めることで、ひとつのまとまりとしての「場面」をとらえ、場面から場面への変化（場面展開）も正確にたどることができきます。

② 登場人物を理解する

物語や小説の中では、さまざまな人物がいろいろなできごとをおこします。登場人物を理解するには、次のことに注意しましょう。

・登場人物と人間関係をつかむ

だれが主人公なのか。同一人物が別の呼び方で表現されている場合もあります。

・登場人物の性別・年齢などや、気持ち・行動をつかむ

・登場人物の間の心理的な関係をつかむ
人物同士がおたがいどんな感情をいだいているかを理解しましょう。

◆ こころの動きを追う

物語や小説の作者は、自分の考えや理想を主人公や登場人物を通して読者に伝えようとしています。それぞれの場面で登場人物がどういう言動をとるか、その背後にある心の動きや考えを観察するように読みましょう。

① 登場人物の気持ちや心の動きを読み取る

主人公の人間像や性格を読み取ったり、場面の理解を深めたりするためには、場面ごとのできごとに対する人物の心の動きや考えと、その表れである言動との結びつきを読み取ることが大切です。

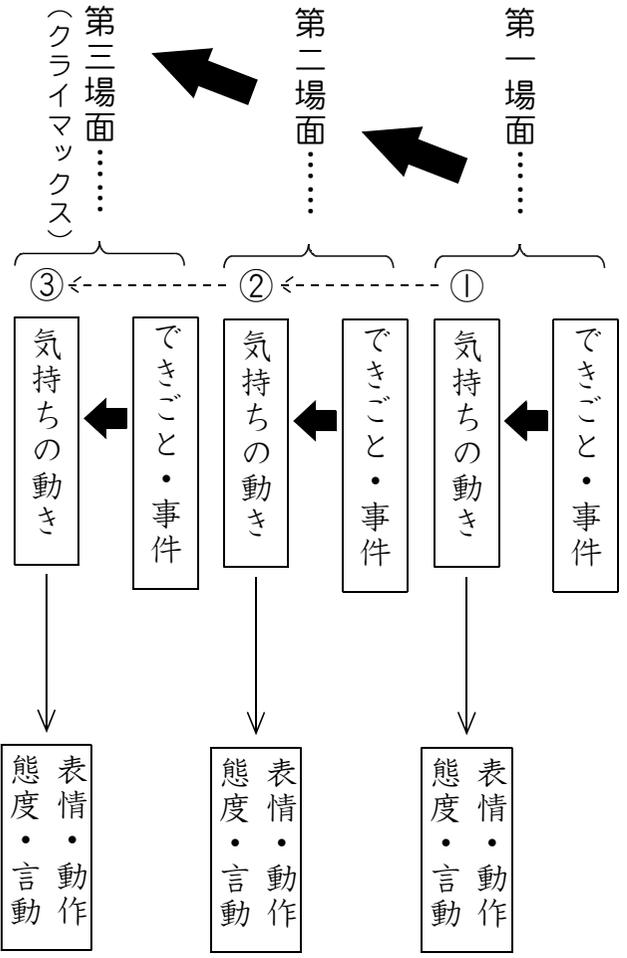
・心の動きを**直接描写**している部分に注目する。

「喜ぶ」「さびしい」、「…と感ずる」などの表現に着目しましょう。

・心の動きを**間接描写**している部分に注目する。

人物の言葉や表情、態度、様子、行動などから気持ちや考えを読み取れます。また、周囲の情景をえがくことで人物の気持ちを描写することもあります。間接描写の部分は、場面全体の展開や因果関係、時代背景などをもとに人物の気持ちを想像し、直接描写に言い換えて読み進めるとよいでしょう。

② 登場人物の気持ちや心の動きを読み取る
場面が移り変わるとともに、登場人物の気持ちが変わっていきます。気持ちの変化をひきおこすきっかけとなる「できごと・事件」に注目し、それを登場人物がどう受けとめるかによって「気持ち」の変化が生じるのです。



◆ 主題をつかもう

物語において、作者がその文章を通して最も書き表したかったことを「主題」といいます。作者は登場人物を通して「主題」を表現するので、登場人物の人間像をとらえることが、「主題」を読み取るうえでとても大切です。

① 登場人物の性格や人物像をとらえる
その人物の性格を直接表している言葉だけでなく、言動や考え方、その人物に対する周りの人の態度などからも、人物像が見えてきます。

② 山場（クライマックス）をよみとる
物語のなかで、心を動かされたり共感したりして強く心に残った場面や、劇的にできごとが変化して話がもりあがる場面を「山場（クライマックス）」といいます。どのようなことに心を動かされたのか、できごとに変化をもたらしたものが何なのかを考えると、主題が見えてきます。

4 言語要素問題にチャレンジ！

◆ 慣用句

二つ以上の言葉が結びついて、それぞれもとの意味とは異なる特別な意味を表している言葉を慣用句といいます。

- ① 転んで足の骨を折る。
② 計画の成功のために骨を折る。

① 実際に足の骨が折れたこと（骨折）を表しています。
② 「苦労をいとわず力をつくす」という意味で使われています。
② の場合のように、「骨」「折る」という二つの言葉のもとの意味をはなれ、特別の意味を表すようになった言葉を慣用句といいます。
慣用句には、体の一部を表す言葉を使ったものや、日常生活に関係の深い道具や品物を使ったもの、また、身近な動・植物を使ったものなど、いろいろあります。

チャレンジ問題①

次の(1)～(5)の□にあてはまる言葉を後の語群から記号で選び、() 内の意味をもつ慣用句を完成させなさい。

- (1) □が出る (予定以上の出費で赤字になる。)
 (2) □を明かす (周りの人を出しぬいて、あつと言わせる。)
 (3) □を焼く (てだてがなくて困る。もてあます。)
 (4) □に余る (あまりのひどさに黙っていられない。)
 (5) □に繕いをかける (力や技術を示そうと張り切る。)
- ① 目 ② 鼻 ③ 口 ④ 手 ⑤ 腕 ⑥ 足

解答らん

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥

◆ 多義語

同じ言葉でありながら、使われる場面によって、異なる意味を表す言葉を**多義語**と
いいます。

- ① とても**手**が足りない。
② この**手**の商品が売れる。

①の「手」は、労働力や働く人員のことを表しています。
②の「手」は、種類や性質を表しています。
同じ「手」という言葉ですが、異なる意味を表しているのです。
ほかにも「手」にはさまざまな意味があります。国語辞典で調べてみましょう。

チャレンジ問題②

次の(1)～(5)の には同じことばがあてはまります。後の語群から一つずつ選
びなさい。

(1) こげたにおいが鼻を
床にひぎを
書類にハンコを

(2) 仲間のかたきを
ひねくれた態度を
食事のバランスを

(3) 道路に水を
結婚式に祝電を
文の最後に句点を

(4) お風呂に水を
いつまでも強情を
できないのに見栄を

(5) ぎるに上げて水気を
ハンドルを右に
手紙の封を

- 語群
- ① はる
② ひく
③ つく
④ とる
⑤ うつ
⑥ きる

解答らん

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥